

みんなくりポジトリ

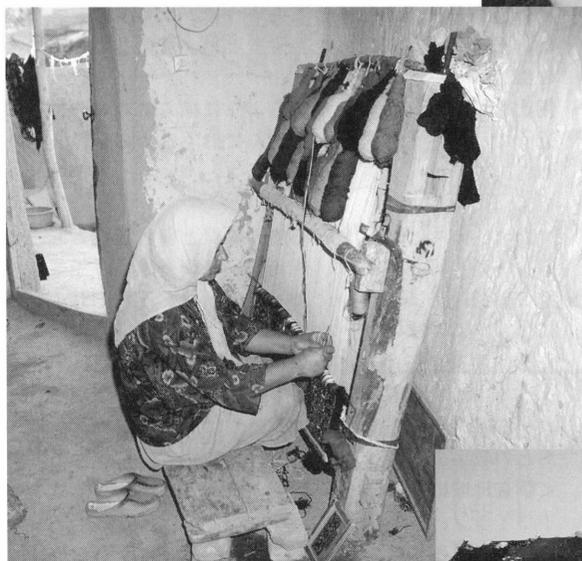
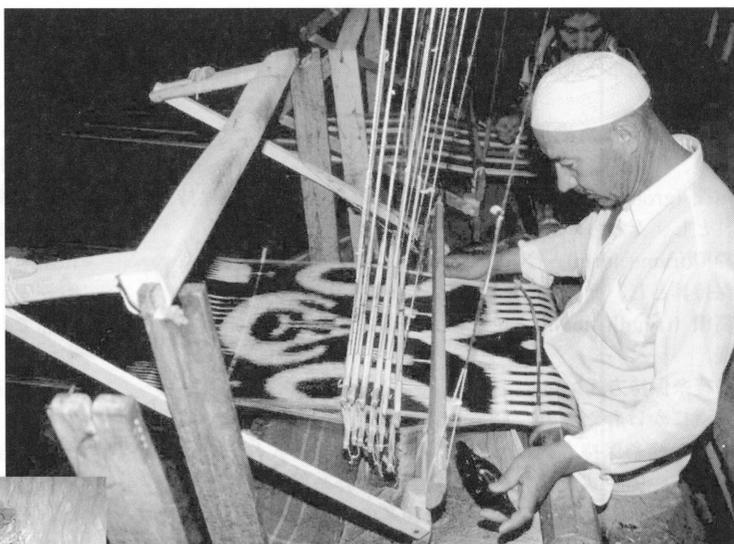
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

シルクロードの織機

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍, 柳, 悦州 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5212

第Ⅲ部 シルクロードの織機

吉本 忍 ・ 柳 悦州



凡例

本稿では、1998年にイラン、1999年にウズベキスタンと中国・新疆ウイグル自治区で調査した65例の織機を、参考資料の巻き編み用枠機1例とともに事例ごとに報告する。それぞれの事例報告においては、調査対象とした織機の調査年月日、調査地、織機を使用していた織り手の民族名、織機の型式、材質、概寸、経糸保持方式、整経方式、開口具設置方式、構成部品、製織中の織物、織り手、調査メモについて記述するとともに、調査地の地図、織機や機織りに関連する写真、織機の構造図を添付し、一部の事例報告には、織機の模式図も添付する。なお、これらのうち、以下では、型式、経糸保持方式、整経方式、開口具設置方式、構成部品の項目について、あらかじめ簡単な説明をしておく。

<型式>

調査対象とした織機の型式は、以下に説明するような、地機、枠機、高機の3種類に大別した。

地機(ground loom)－地面に設置した杭や横木を経糸保持具とし、それらのあいだに経糸を張りわたした織機。

枠機(frame loom)－枠、あるいは、枠に付属する棒を経糸保持具とし、それらのあいだに経糸を張りわたした織機。

高機(treadle loom)－足踏み式の開口装置をそなえた織機。

<経糸保持方式>

織機にかけわたされた経糸の保持方式。本稿で報告する織機の経糸保持方式としては、固定式と垂下式の2方式がある。固定式では経糸は固定された経糸保持具にかけわたされており、垂下式では、経糸の一方、あるいは双方に可動式の経糸保持具を介して錘りが吊るされている。

<整経方式>

整経方式は、機織りに必要となる経糸を準備するさいの経糸のまとめ方であるとともに、織機にかけわたしたさいの経糸保持具に対する経糸のかけわたし方を意味している。整経方式には、平整経式、輪状整経式、擬似輪状整経式、結節輪状整経式の4方式があるが、本稿で報告する織機の整経方式には、以下に説明する平整経式、輪状整経式、擬似輪状整経式の3方式がある。

輪状整経式－経糸保持具に経糸を輪状にかけわたした整経方式。この整経方式では、織りあがりの布のかたちも輪状となる。

擬似輪状整経式－経糸中継棒を介して、経糸保持具に経糸を輪状にかけわたした整経方式。この整経方式では、織りあがったあとに経糸中継棒を抜き取ると、布のかたちは矩形となる。

平整経式－経糸保持具に経糸を平面的にかけわたした整経方式。この整経方式では、機織りのさいの布は単層であり、織りあがりの布のかたちは矩形となる。

<開口具設置方式>

開口具設置方式には、可動式と固定式があり、動く状態で設置してあるばあいは可動式、動かない状態で設置してあるばあいは固定式となる。

<構成部品>

織機の構成部品のおもなものには、以下のような部品がある。

経糸保持具－経糸を直接保持するための部品。そのうちには次のような部品がある。

経糸保持棒－経糸を直接保持するための横木や杭などの

棒。

経糸保持紐－経糸を直接保持するための紐。

経巻き棒－経糸を直接保持し、経糸を巻き取っておくための棒。

布巻き棒－経糸を直接保持し、織られた布を巻き取っておくための棒。

経糸間接保持具－経糸保持具を介して、経糸を間接的に保持するための部品。

経糸中継棒－整経方式が擬似輪状整経式のばあいに使用する部品。経糸は経糸中継棒に番目状にかけられており、経糸中継棒を介して輪状を呈している。

開口具－経糸の開口や逆開口をおこなうための部品であり、そのうちには次のような部品がある。

輪状綜統－地機や枠機に認められる開口具で、輪状の綜統糸に、奇数列、あるいは、偶数列の経糸が通っている。開口保持具－地機や枠機に認められる開口具で、奇数列と偶数列に分離して、上糸と下糸とした経糸のあいだに通じている。このような開口保持具には、棒状の開口保持棒と板状の開口保持板がある。

番目綜統－高機の開口具として使用されている。番目状に組みあわせた綜統糸の番目の部分に経糸が通っている。

綜統固定具－綜統を動かないように固定しておくための部品であり、地機の輪状綜統を固定するために使用されている。

開口部記憶紐－経糸の上糸と下糸のあいだに通された紐で、開口保持具が経糸のあいだから抜け落ちたさいに、復元を容易にするための部品。

経糸整列具－経糸が絡まないように、1本ずつ、あるいは、小さな束状に順序正しくまとめ、配置しておくための部品。

幅出し具－織幅が一定になるように織られた布の織口の近くで、両端の織耳に差し込んでおくための部品、すなわち、伸子。

なお、本稿で提示する65例の織機と参考資料とした巻き編み用枠機の1例は、便宜的に、調査地域、手織機の型式、整経方式の違いによって分類し、それぞれの織機に3文字のアルファベットによるコード番号を付した。なお、共通するコード番号が複数ある場合には、アルファベットのあとに、-1、-2、-3のように数字を割り当て、コード番号が単一のものについては、アルファベットのあとの数字を-1とした。

<調査地域による分類>

I：イラン、X：中国・新疆ウイグル自治区、

U：ウズベキスタン

<織機の型式による分類>

G：地機、F：枠機、T：高機

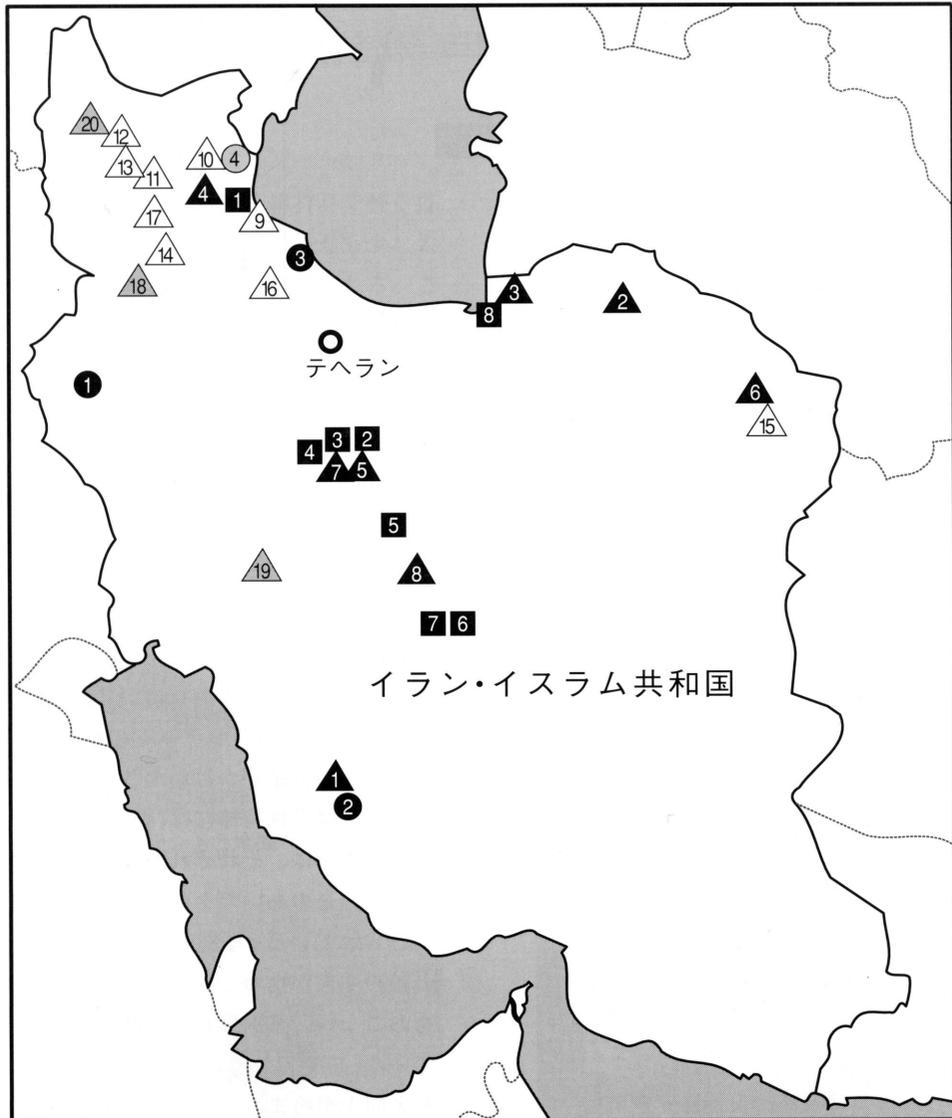
<整経方式による分類>

C：輪状整経式、J：擬似輪状整経式、F：平整経式

[コード番号の解説例]

コード番号が IGC-3 の場合、このコード番号に該当する織機は、調査地域がイラン (I) であること、織機の型式が地機 (G) であること、整経方式が輪状整経式 (C) であることを示している。そして、最後の数字 (-3) は、同じ IGC という織機型式の3番目の織機であることを意味している。

イランの織機



- | | | | |
|---------------|----------------|----------------|---------------|
| ① 地機 【IGF-1】 | ▲5 柁機 【IFF-5】 | △14 柁機 【IFC-6】 | ■1 高機 【ITF-1】 |
| ② 地機 【IGF-2】 | ▲6 柁機 【IFF-6】 | △15 柁機 【IFC-7】 | ■2 高機 【ITF-2】 |
| ③ 地機 【IGF-3】 | ▲7 柁機 【IFF-7】 | △16 柁機 【IFC-8】 | ■3 高機 【ITF-3】 |
| ④ 地機 【IGJ-1】 | ▲8 柁機 【IFF-8】 | △17 柁機 【IFC-9】 | ■4 高機 【ITF-4】 |
| ▲1 柁機 【IFF-1】 | △9 柁機 【IFC-1】 | △18 柁機 【IFJ-1】 | ■5 高機 【ITF-5】 |
| ▲2 柁機 【IFF-2】 | △10 柁機 【IFC-2】 | △19 柁機 【IFJ-2】 | ■6 高機 【ITF-6】 |
| ▲3 柁機 【IFF-3】 | △11 柁機 【IFC-3】 | | ■7 高機 【ITF-7】 |
| ▲4 柁機 【IFF-4】 | △12 柁機 【IFC-4】 | | ■8 高機 【ITF-8】 |
| | △13 柁機 【IFC-5】 | | |
| | | △20 柁機 【IFJ-3】 | |
- 参考資料：巻き編み用

地図中の記号：形は織機の型式，色は整経方式を意味している。

- | | |
|-------------|----------------|
| ● - 地機・平整経式 | ○ - 地機・擬似輪状整経式 |
| ▲ - 柁機・平整経式 | △ - 柁機・輪状整経式 |
| ■ - 高機・平整経式 | ▲ - 柁機・擬似輪状整経式 |

地機【IGF-1】

調査年月日 : 1998年9月16日
 調査地 : ケルマーンシャー (Kermanshah)
 市東方5km地点
 民族名 : クルド (Kurd)

型式 : 地機
 材質 : 木, 金属 (綜統固定具の1つ)
 概寸 : 全長841cm, 全幅107cm, 全高16cm
 経糸保持方式 : 固定式
 整経方式 : 平整経式
 開口具設置方式 : 綜統固定・開口保持棒可動式



地組織 : 平織組織
 素材 : 羊毛
 用途 : カーペット, 布団カバーなど
 経糸全長 : 1682cm
 織幅 : 46cm

構成部品

経糸保持具 : 前部経糸保持棒 (横木)
 <図IGF-1-a-1>
 後部経糸保持棒 (横木)
 <図IGF-1-a-2>

経糸間接保持具 : 前部経糸間接保持紐
 <図IGF-1-a-3>
 前部経糸間接保持棒 (横木)
 <図IGF-1-a-4>
 前部経糸間接保持棒固定用杭
 (2本) <図IGF-1-a-5>
 後部経糸間接保持紐
 <図IGF-1-a-6>
 後部経糸間接保持棒 (横木)
 <図IGF-1-a-7>
 後部経糸間接保持棒固定用杭
 (2本) <図IGF-1-a-8>

開口具 : 輪状綜統<図IGF-1-a-9>
 開口保持棒<図IGF-1-a-10>

開口補助具 : 弾き棒(2本)<写真IGF-1-5-c,d>

綜統固定具 : 木片と空き缶<図IGF-1-a-11>

緯打具 : 櫛状緯打具<写真IGF-1-5-b>

緯打補助具 : 緯糸打ち締め紐

開口部記憶紐 : <図IGF-1-a-12>

織り手 : 女性2人

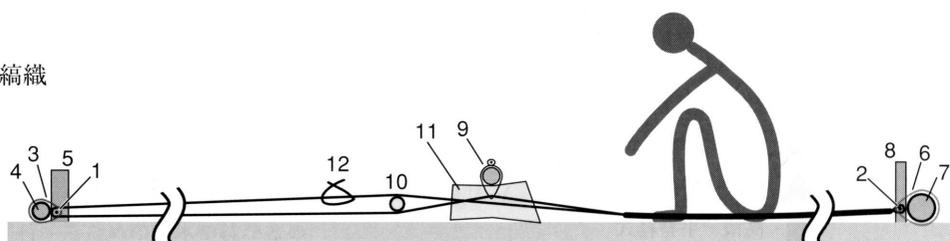
調査メモ

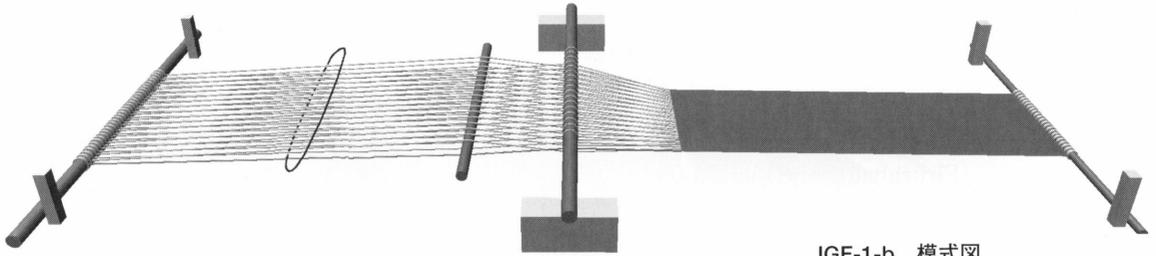
機織りはクルド人の遊牧民が夏营地としているケルマーンシャー郊外のテントの傍でおこなわれていた。地機の経糸がかけわたされている前部経糸保持棒と後部経糸保持棒には、細い棒が使用されており、これらの棒は、それぞれが2本の杭にわたされた横木に、経糸のあいだをらせん状に通した紐でくりつけられている<写真IGF-1-4>。機織りには、母親と娘の2人が携わっており、母親が主体的に機織りをおこない、娘は母親の向かい側で介添え役を務めていた。経糸は太く、かなり毛羽立っているために、経糸同士が絡まって開口や逆開口がスムーズにおこなえない。そのため母親と娘は経糸の開口や逆開口のたびに、2人で先の尖った長さ15cmほどの弾き棒を経糸の上から左右に往復させ、絡み合った経糸をほぐしながら、手のひらで経糸を押し下げて、上糸と下糸を分離させるための作業を繰り返していた<写真IGF-1-2>。緯糸の打ち込みには、杵機でパイル織のカーペットを織るさいに使われるものと同様の櫛状緯打具が使用されていた。また、緯糸の打ち込

製織中の織物

織技法 : 格子縞織

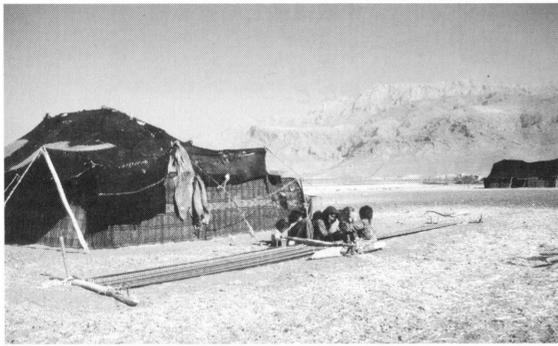
IGF-1-a 構造図



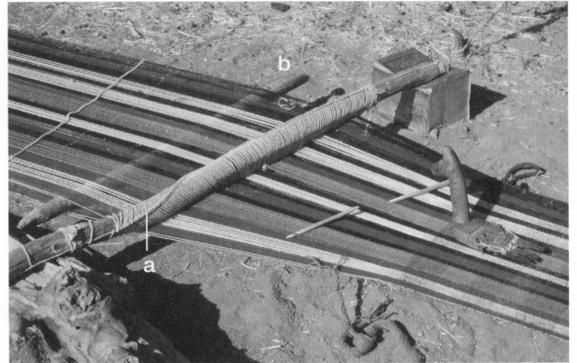


IGF-1-b 模式図

みは、経糸のあいだに通した緯糸を緯打具で軽く打ち込んで手前に引き寄せた後に、緯糸よりも少し太めの緯糸打ち締め紐が経糸のあいだに通される。この紐は緩衝材としてもちいられており、紐をあいだにして緯糸の本格的な打ち込みがおこなわれる。なお、この紐は打ち込みを終えると抜き取られる。



IGF-1-1 テントと地機



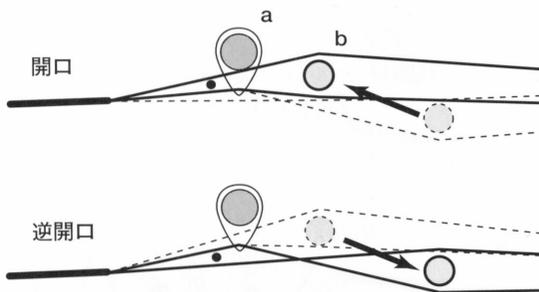
IGF-1-3 輪状綜統-a, 開口保持棒-b



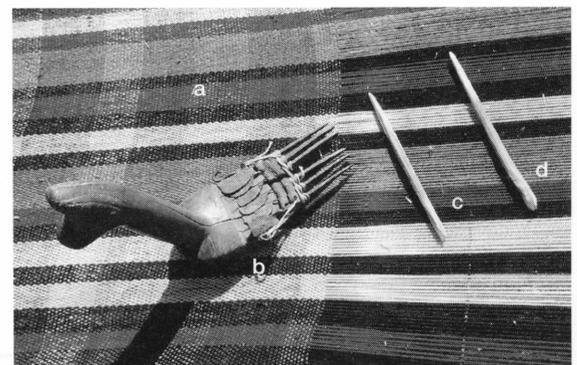
IGF-1-2 開口操作



IGF-1-4 前部経糸保持棒-a, 前部経糸間接保持紐-b, 前部経糸間接保持棒-c



IGF-1-c 固定綜統の開口原理
輪状綜統-a, 開口保持棒-b



IGF-1-5 製織中の織物-a, 緯打具-b, 弾き棒-c, d

地機【IGF-2】

- 調査年月日 : 1998年9月24日
 調査地 : フィールーズ・アーバード市
 (Firuzabad) 西方15km地点
 民族名 : カシュカイ (Qashqa'i)
 型式 : 地機
 材質 : 木
 鉄 (前部経糸保持棒繫留用杭,
 後部経糸間接保持棒固定用杭,
 前部経糸保持棒連繫用ネジ金具)
 石 (綜統固定具)
 概寸 : 全長213cm, 全幅125cm
 経糸保持方式 : 固定式
 整経方式 : 平整経式
 開口具設置方式 : 綜統固定・開口保持棒可動式

構成部品

- 経糸保持具 : 前部経糸保持棒 (横木)
 <図IGF-2-a-1>
 後部経糸保持紐
 <図IGF-2-a-2>
 経糸間接保持具 : 前部経糸保持棒繫留用ネジ金具
 (2本1組) <図IGF-2-a-3>
 <写真IGF-2-1>
 前部経糸保持棒繫留用杭
 (2本1組) <図IGF-2-a-4>
 後部経糸間接保持紐
 <図IGF-2-a-5>
 後部経糸間接保持棒
 <図IGF-2-a-6>
 後部経糸間接保持棒固定用杭
 (2本1組) <図IGF-2-a-7>
 開口具 : 輪状綜統<図IGF-2-a-8>
 開口保持棒<図IGF-2-a-9>
 綜統固定具 : 石 (2個) <図IGF-2-a-10>
 緯打具 : 櫛状緯打具<写真IGF-2-3>



その他 : パイル糸切断用ナイフ

製織中の織物

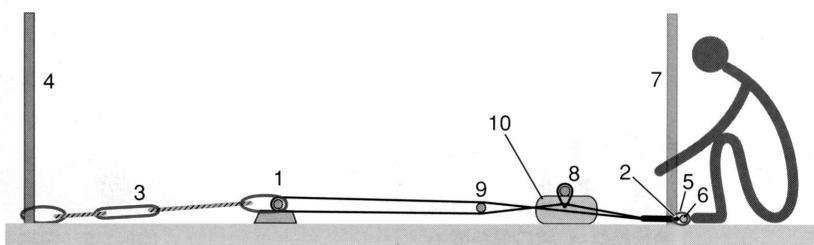
- 織技法 : パイル織と綴織の併用
 地組織 : 平織組織と緯畝組織
 素材 : 羊毛
 用途 : 袋など
 経糸全長 : 266cm
 織幅 : 28.5cm

織り手 : 女性1人

調査メモ

この地機の調査は、調査地であるカシュカイ人の遊牧民の夏営地への訪問が、機織りをしていない時期であったことから、特別に機織りの実演を依頼しておこなった。地機は、住居として使用されているテントの中のカーペットを取り除いた砂地の部分からテントの外にかけて設置された。この地機の前部経糸保持棒の両端は、ネジ金具を介して2本の杭に繋がれており、ネジ金具は経糸の張力調整具としても機能している。また、後部経糸保持棒の両端は2本の杭に直接かけわたされている。開口具の設置方式は、綜統固定・開口保持棒可動式で、輪状綜統の綜統棒の両端は、石の上にかけてわたして固定されている。経糸の開口と逆開口をおこなうための開口保持棒の操作は、地機【IGF-1】と同様で、機織りではペルシャ結びのパイル織と綴織が併用されていた。

IGF-2-a 構造図

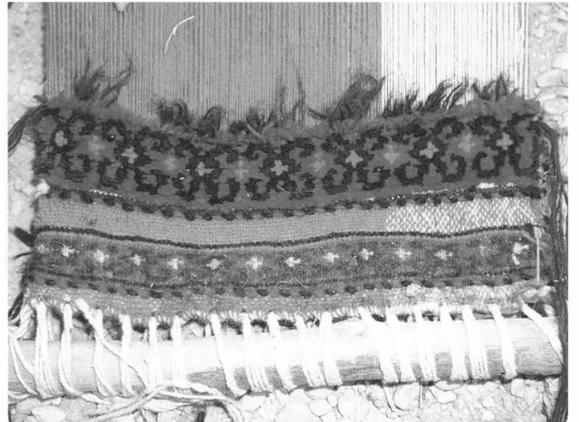




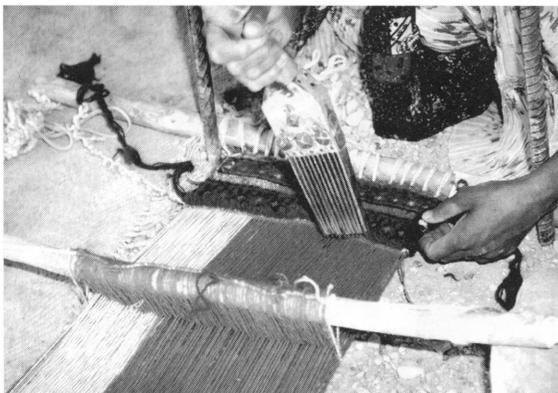
IGF-2-1 全景



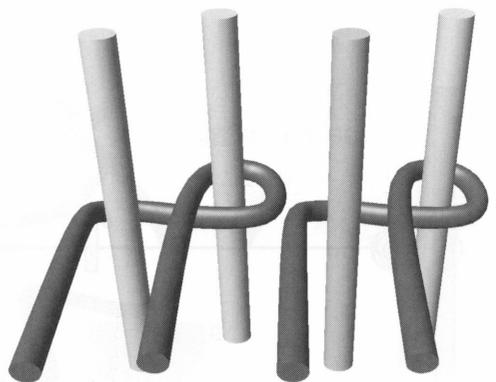
IGF-2-2 機織り



IGF-2-4 後部経糸保持部分と製織途中の織物



IGF-2-3 緯糸の打ち込み



IGF-2-b ペルシア結び